

教科	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取組）	成果(○)と課題(△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 音読練習に意欲的に取り組む児童が多い。内容理解や音読の技能も高まってきている。 相手意識をもって話したり、聴いたりすることに課題がある。 自分の考えを分かりやすく文章に表すことに課題がある。（表現の仕方、語彙の不足） 物語文を場面の変化に着目して読み取れる児童が多いが、説明文では、筆者の考えを基に自分の考えをもつことに課題がある。 文法、文字や語句、漢字の理解に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書教材以外の音読にも取り組み、語彙力や表現力を高める。 友達と意見を交流する機会を意図的に設け、自分の考えを話したり、友達の考えを聴いたりすることの楽しさを味わえるようにする。 様々な種類や分量の文章を書くことに慣れる。書いたものを友達と見合うことで、文章を推敲する際の参考にしたり良い表現に触れたりする。 説明文では、キーワードをつなげて要約しながら大切なことを読み取り、筆者の考えを捉えられるようにする。筆者の考えや要約を決められた文字数でまとめられるようにする。 文字や語句、漢字、文法のプリントなどを活用して理解を深める。（けやきタイム、家庭学習など） 国語辞典や漢字辞典を引いて自分で調べることができるように、環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○けやきタイムや家庭学習などで慣用句や熟語などに繰り返し触れることで、語彙や表現の幅が広がった。 ○繰り返し出てくるキーワードや構成・文章のつながりなどから、筆者の考えを的確に捉えられるようになり、以前よりスムーズに要約ができるようになってきた。 △相手に伝わるように自分の意見をまとめて話したり、相手の意図を考えながら聴いたりすることに課題のある児童が多いので、相手意識をもたせるように指導してきた。 △書くことへの苦手意識が払拭できない児童がいる。自分の考えをもてない、表現の仕方が分からないなどの要因があるので、書き方の見本を提示したり、友達と文章を読み合ったりしてきた。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ニュース番組や世の中の出来事に興味が高く、都道府県の位置や県庁所在地、特徴に興味をもつ児童が多い。 資料や生活の中の問題から、自分たちで学習課題を立てることができた。 地図、写真、グラフ、年表などの複数の資料を読み取ったり、読み取ったことを基に考えたりする力を高める必要がある。 調べたことをノートやポスター、新聞などに表現する力を高める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県クイズを活用し、都道府県に対する理解を深める。ニュースと関連付けて取り上げ、位置や特徴を復習する。 問いに対して、最後まで意欲的に学習を進めていけるように、適切な資料を用意したり毎時間のめあてを明確にしたりする。 複数の資料から情報を選択、比較し、整理できるよう、資料の見方を指導し、読み取る活動を積み重ねる。 資料の読み取り方やまとめ方のよさを児童がイメージできるように、手本となるノートや作品を紹介する。 単元のまとめの学習で作品を掲示して学年で見合うことで、表現力を高める。パンフレットやポスターなど様々な方法でまとめ、経験値を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○クイズの活用や時事問題と関連付けることで、都道府県の位置や特徴は意欲的に身に付けることができた。 ○各単元において、資料や生活の中から学習課題を立てることで、最後まで意欲をもって調べたり考えたりすることができた。また、学習したことを生活の中に生かそうとする姿が多々見られた。 △複数の資料の読み取りとなると、正しく数値や情報を読み取れない児童がいるので、グラフの読み方を丁寧に押さえ、考察を話し合う機会を意図的に設けた。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 計算力の正確さと速さや、コンパスや分度器などの用具の使い方について個人差がある。 問題の内容理解をスムーズに読み解いたり、深く考えたりすることが得意ではない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> けやきタイムに、計算ドリルに付属している練習プリントなどに繰り返し取り組んだり、毎日の宿題に計算ドリルの問題を計画的に取り組ませたりして、基礎基本の理解を深める。 解決の必然性のある問題を提示し、問題→めあて→ 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎週のけやきタイムで繰り返し計算練習に取り組んだ結果、基礎基本の着実な理解が高まってきた。 ○問題解決学習のスタイルの学習形態を定着させたことで、児童が見通しをもって

	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面を図や数直線、言葉、式でノートに表し、それぞれを関連付けながら簡潔な言葉で説明するのに時間を要する児童がいる。 	<p>(見通し) 自力解決→集団解決→まとめ(適用問題)を基本とし、見通しをもって活動したり、考えたりできるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題場面を図や数直線、言葉、式など、多様な方法でノートに表現できるようにする。 友達の考えを自分の言葉で説明する活動を取り入れ、他者の考えに積極的に触れることで、そのよさに気付けるようにする。 	<p>学習できるようになった。</p> <p>△友達の考えを板書からノートに書いていくのに、書くことで精いっぱいになってしまう児童もあり、友達の考えを理解するために配慮が必要である。</p>
理科	<ul style="list-style-type: none"> 日常の生活場面から問題を見いだすことができる児童がいる。 実験や観察に意欲的に取り組む児童が多い。 仮説を立てるときに、生活経験と結び付けながら根拠を明確にして表現することに課題がある。 実験道具の正しい使い方について習熟度に差がある。 実験結果の予想と結果を照らし合わせて考察をしていくことに慣れていない児童が多い。 実験や観察の結果を分かりやすく表し、結論を導出する力をさらに高める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題→仮説→結果の予想→実験・観察→結果→考察→結論を基本とし、児童が見通しをもって活動したり、考えたりできるようにする。 仮説を立てる際に理由を明確にノートに表現する指導を重視する。 なぜ実験結果がそうなったのかについての原因を考えるようにし、結果の予想と照合しながら結果から言えることを考察とする。 体験を伴って実験道具の正しい使い方を理解できるようにする。 考察から問題に立ち返って結論を導き出し、ノートに簡潔に書くことを積み重ねる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一連の問題解決学習の流れを知ることによって、児童が問題に対する仮説や実験の計画、実験結果の予想を組み立てやすくなった。 ○結果と考察の区別を明確にし、結果を実験の内容によっては表やグラフで表すことでさらに考察をしやすくすることができた。 ○多くの実験器具を扱うため、事前に動画により使用方法を視覚化することで、理解が深まった。 △考察から結論へと導く過程で、その区別を混同する児童もいたので、問題に立ち返るよう粘り強く指導していく。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 楽譜を見て正確にリズム打ちをする児童ができた。しかしまだなんとなく感覚でリズム打ちをする児童もいる。 音が出せない中、楽譜を見ながら、運指の練習を集中して行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習した楽曲のリズムを使ったり、歌いながらリズム打ちをしたり正確に楽譜を読む練習を1小節または2小節ずつなど、短い単位で行う。 ペア学習やグループにより指使いの確認や音色の違いを聴き比べる活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歌唱活動ができない反面、譜読みをしたり鑑賞に浸ったりする活動ができたため、楽曲のしくみや音譜の読み方など楽譜を解読する力がついた。 △ペア学習やグループ学習ができなかったため、友達の音色を聴いて評価することができなかった。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 活動に見通しがもてない。 途中までつくったけれど自分の思い通りにならないとあきらめがちである。 既習事項を生かして表現できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導者や友達と考えながらつくる。手順を細かく分けて考えるよう指導する。 計画的な造形体験を積みませ、技能の定着を図る。 表したいものに応じて経験した技法を選択できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> △活動の手順が分からない。言語以外の例示が必要。 ○布や木材など多様な材料の使用法を経験することができた。 ○振り返りを導入時に行うことで、表したいものに応じて経験した技法を選択できる児童の姿が見られた。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に運動に取り組むことができる。準備や片付けも協力して手際よく行うことができる。 チームでアドバイスしたり、励ましたりしながら運動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カード(個人・チーム)を活用し、本時の学習に見通しをもって取り組めるようにする。 グループで作戦を考えたり、その結果を振り返ったりする時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習カードを基に、チームや個人の技術を高めるための練習内容や作戦を考えることができた。 ○勝敗よりもゲームの内容を重視するよう

	<ul style="list-style-type: none">・勝敗にこだわるあまり、友達の動きに注目し、良さを見付けることができない。・運動の動きを具体的に思考し、判断して行動することに課題がある。	<ul style="list-style-type: none">・学習カードを活用したり、試合や練習の様子を動画に録って客観的に振り返りができるようにしたりする。・活動前や活動後に、技能のポイントを動画やイラストを用いて具体的に紹介する。	<p>になり、友達の良い動きに気付いて取り入れようとする児童が増えた。</p> <p>△体幹が弱い、見本と同じ動きができない、経験が乏しいなど個人差が激しかったので、動きを細かく分けて行ったり、イメージがもちやすいように動画を見せたりした。また、自分の動きを動画に撮って確認し、アドバイスし合うなどして次の学習につなげられるようにした。</p>
--	--	--	--